

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	29	学校名	不破高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域と連携した教育を実践する伝統ある高校として 一人一人の良さや可能性と主体性を大切にすきめ細かな教育活動を通して 地域社会の創り手の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	歴史と伝統を誇る学校として、校訓「あかるく、さとく、たくましく」を旨とし、「知・徳・体」の調和のとれた人格の形成を図るとともに、生徒一人一人の個性的で多様な進路の実現を図る。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な学力を身に付け、主体的に課題解決に取り組む生徒</li> <li>基本的生活習慣を身に付け、自分と多様な人々の生命の安全と互いの人権を尊重し、規律を守る生徒</li> <li>自分に適した進路目標を見つけ、進路実現のための学力とコミュニケーション能力を身に付けた生徒</li> </ul>
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な内容の定着を図るための「学び直し」を実践するとともに、具体的な到達目標の設定と指導内容の重点化を推進</li> <li>保護者との連携を図りながら共感的な生徒理解に努め、ユニバーサルデザイン（不破高スタイル）を基礎とした段階的な支援（New不破高スタイル）を実践</li> <li>単位制のメリットを活用した教育課程を編成し、進路希望に即した科目選択を充実させ、自己適性の的確な理解に基づく進路目標を実現</li> </ul>
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動にコツコツ取り組む生徒</li> <li>部活動や生徒会活動、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲のある生徒</li> <li>学校生活に真摯に取り組み、進路実現を目指そうとする生徒</li> </ul>
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導等の充実を図るため、継続的な校内研修が必要</li> <li>自ら望んで学びに向かう態度を育成する授業力の向上</li> <li>保護者との連携を密にした生徒支援の在り方と校内における情報共有の方法を再構築する必要</li> </ul>	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	生徒の実態や社会の変化に即した、活気に満ち溢れ、魅力ある学校経営の推進
	学習指導	きめ細かな学習活動を通じた、基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成
	進路指導	地域との連携・探究的な学びを通し、社会的・職業的なキャリア発達を将来を通して行える資質・能力の育成
	生徒指導	保護者との連携を通して基本的生活習慣を確立し、生命の安全と互いの人権を尊重する規律ある学校づくりの推進

年 度 目 標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学校経営	「不破ウィーク」の実践を通して、生徒の主体性を育み一人一人の自己有用感を育成する。	施策Ⅰ-1	実施後アンケート結果、生徒向け外部評価等
	生徒が主体となった広報活動を通して、生徒の自己肯定感の向上と魅力ある学校づくりを推進する。	施策Ⅳ-20	生徒・保護者向け外部評価等
	学校運営協議会を中心に、外部の有識者等の意見を積極的に取り入れ、活性化を推進する。	施策Ⅳ-20	年3回の学校運営協議会における意見、評価等
	校内研修の充実と自校型の通級による指導等の実践により、高校における特別支援教育を推進する。	施策Ⅳ-21	「自立活動」及び「自己探求（学校設定教科）」の自己評価等
学習指導	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため「学び直し」を行い、学習の目標と指導内容を明確に設定・整理する。	施策Ⅱ-8	考查結果、自己評価等
	生徒一人一人の力を観点別に丁寧に評価し、その評価の方法に関して再考する。	施策Ⅱ-8	各教科による評価、分析等
	少人数の利点をいかしつつ、ICTを積極的に活用し、生徒が達成感を感じられるような魅力ある授業を行う。	施策Ⅱ-9	授業アンケート、自己評価等
	生徒一人一人の良さや可能性と主体性を大切にすきめ細かな学習活動を行う。	施策Ⅳ-23	各活動の実施記録、評価等
進路指導	探究的な活動を通して自ら学ぼうとする姿勢や他者と協働しようとする態度を育成する。成果を進路へ生かす生徒を10%以上とする。	施策Ⅰ-1	生徒の探究的な活動の成果や自己評価や進路実績等
	地域の文化や人々との関わりを大切にし、その一員として地域に貢献する心を培う。総合的な探究の時間の50%以上を地域との連携活動とする。	施策Ⅰ-4	企業との連携、高大連携による進路行事の充実
	基礎的・基本的な学力の定着を図り、自己実現に向けた態度を育成する。	施策Ⅱ-8	各種教材等の有効的な活用
	自己の適性や可能性を理解し、キャリアプランナーや外部機関と連携したキャリア教育を推進する。	施策Ⅱ-13	総合的な探究の時間の充実
生徒指導	保護者との連携を密にして、全職員の共通理解・共通行動のもと、身だしなみ・遅刻・授業規律等の学校生活における規範意識の向上を図る。	施策Ⅱ-13	身だしなみ指導・授業実態の報告内容
	信頼と愛情に基づく共感的な生徒理解に努め、予防的・共感的教育相談を推進し、いじめや不登校への迅速な対応に努める。	施策Ⅰ-3	いじめや不登校に対する対応と報告内容
	学校・保護者・地域が一体となって取り組む体制づくりを整備し、社会参加活動を援助する。	施策Ⅲ-19	MSリーダーズ活動の報告内容
	必要に応じて、個別の支援計画を作成し、より細かな支援を実施する。	施策Ⅳ-23	個別支援の実施報告内容

年 度 末 評 価 ( 自 己 評 価 )			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<p>不破ウィーク（水ゴゴ）の実践により、生徒の学校評価項目25（主体性）は63%、保護者の学校評価項目24（計画性）は69%という結果であった。【A】</p> <p>本校ホームページで学校行事等の積極的な発信、マスメディアによる地域連携の活動や部活動などの紹介があったが、生徒の学校評価項目2での不満足感が昨年度よりも上昇している。【B】</p> <p>授業や不破ウィーク（水ゴゴ）、学校行事などの公開を通じて、企画や運営等についてご意見等をいただいた。【A】</p> <p>通級による指導「自立活動」の内容や指導終了後の生徒個人の振り返り等をふまえ、学習支援や生徒支援のための校内研修を実施した。【A】</p>	A	<p>不破ウィーク「水ゴゴ」の実践は、生徒自身の主体性や計画性を育成するよい機会となっている。一方で、有意義に過ごすことができていない生徒が15%存在しており、意識付けの方策が課題である。</p> <p>学校行事等を実施するたびにホームページを更新し、積極的な情報発信に努め、教育活動をPRすることができた。しかし、本校生徒や保護者、地域の方々に広く認知され楽しめる情報発信の在り方が課題である。</p> <p>地元の小・中学校との新しい交流や地域行事等への参加を積極的に行い、活性化に繋げることができた。</p> <p>教職員が生徒の特性を把握し、一人一人の生徒の気持ちに寄り添い適切な支援を実践している。一方で、人間関係を上手く築くことができない生徒が増加しており、コミュニケーション能力の向上が課題である。</p>	
<p>1年次における学び直しの充実、および2・3年次の教科科目における基礎基本の定着を図る指導を推進した。その結果、学校評価項目7（満足度）が昨年度の80%から84%へ向上した。【B】</p> <p>成績評価基準および補充指導の在り方を見直し、特に学期末に実施する補充指導の方法を改善した。これにより、学校評価項目8（満足度）は昨年度75%から84%へ改善した。【A】</p> <p>教員によるICT活用のみにとどまらず、生徒自らがICTを活用できるよう、各教科において授業改善を行った。その結果、学校評価項目10（満足度）は昨年度64%から81%へ大きく向上した。【A】</p> <p>不破ウィーク（水ゴゴ企画）等の取組を通じ、生徒が主体的に活動に参画できる機会を創出した。これにより、学校評価項目19（満足度）は69%から82%へ、学校評価項目5（満足度）は76%から83%へと向上した。【A】</p>	A	<p>基礎・基本の定着を進路選択や進路実現につなげるため、指導内容の改善と学習到達度を把握する仕組みの構築が求められる。</p> <p>成績評価の妥当性・公平性の共有が進み、補充指導では生徒の主体的な学習姿勢の育成が進んだ。</p> <p>教材の多様化やICT活用により、分かりやすい学習環境が整い、生徒の思考力・表現力も向上した。</p> <p>生徒が企画・運営に参画できる体制をさらに整備し、主体性・協働性の一層の向上を図ることが課題である。</p>	A
<p>水ゴゴ、探究活動、部活等の中で生徒の主体的な活動を支援。進学希望者25名中5人が成果を生かして進学。（20%）【A】</p> <p>総合的な探究の時間での地域連携活動は35回中18回51%を達成。（昨年度は34%）【B】</p> <p>学校評価項目「資格取得に向けた指導、面接指導等は充実している」にて、満足度が昨年度64%→今年度70%へUP【A】</p> <p>外部機関と連携したキャリア教育（総合的な探究の時間）を35時間中12回実施。（昨年度20%→今年度34%）【A】</p>	A	<p>不破ウィークの水ゴゴ企画を通して、地域連携を行い、その経験や成果を元にして進学できたことは成果である。</p> <p>学びの環境を学校外へ求め、校外講師やフィールドワークへと広げたことは成果である。来年度はより広げることが課題である。</p> <p>生徒がよりより進路実現ができるように親身な指導ができてきていることは成果である。基礎的・基本的が中心になっている点が課題である。</p> <p>地域の企業や進学先を知ってもらえる機会を増やしたのは成果である。課題は、より体験的な機会を設けることである。</p>	
<p>1日あたりの遅刻者の数の増加（昨年度7.9人→今年度8.2人）</p> <p>問題行動（特別指導を含む）の数の増加（昨年度1件→今年度9件）【C】</p> <p>迅速な情報共有・組織的方針の決定により、いじめ認知にいたる前での対応が増加（いじめの認知件数 昨年度13件→今年度3件）【A】</p> <p>MSリーダーズ活動の参加率86パーセントと高い現状。生徒会を中心としたMSリーダーズ活動への積極的な参加。【A】</p> <p>年2回の懇談時に、支援内容の点検、支援の継続等を丁寧に本人と保護者とともに確認。【B】</p>	B	<p>時間やルールを守るという規範意識が、低い現状にある。今後、遅刻防止への取組、規範意識が高まる活動（LHR）を通して、この数値を改善していきたい。</p> <p>保健室と教育相談室の情報共有の仕方を改善し、より迅速に情報共有がなされ、学校の対応のスピードが上がった。</p> <p>MSリーダーズ活動の参加率が高い部分は、評価できる。ただ、この活動が生徒の自己肯定感や自己有用感の向上につながっていない部分が課題である。</p> <p>自己探求や自立活動を通して、それぞれの課題に取り組むことができた。</p>	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月27日

<ul style="list-style-type: none"> <li>4月当初に全校生徒を対象にした不破ウィーク「水ゴゴ」のガイダンスの実施。（学校経営）</li> <li>SNSを利用した広報活動の実施。（学校経営）</li> <li>全校生徒を対象としたLHRでのコミュニケーション能力の育成かつ向上プログラムの計画的な実施。（学校経営）</li> <li>基礎基本の定着と主体的な態度を育成するため、授業をはじめとするすべての教育活動において、きめ細かな指導と学びの充実を推進する。（教務）</li> <li>基礎的・基本的な学びから探究的で高度な学びへと広げ、進路実現の幅を広げていく。そのために、授業内容を高度化する。（進路）</li> <li>基本的な生活習慣の確立と人権意識の向上をさせるため、遅刻防止週間やLHRでのSSTを実施していく。（生徒指導）</li> </ul>
--

学校関係者評価

実施日：令和8年2月10日

<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域分野の評価項目の達成状況等においてAからDの評価が付けられているが、明確な評価規準を設定するとよい。</li> <li>学校としてSNSを活用した広報活動を推進していくことは理解できる。情報モラルを啓発する意味で、生徒の見本となるような広報活動をお願いしたい。</li> <li>「不破ウィーク」はとてもよい取組みである。今後は、生徒の自由度を担保しながら新入生への周知方法や生徒主体の企画立案の在り方などを研究し強化できるとよい。</li> <li>地域での積極的な活動は、多くの人が生徒の様子を知ることができる情報発信の場でもあり、生徒が成長するよい機会となっている。今後も地域と連携した取組みを積極的に実践してもらいたい。</li> </ul>
---